

令和8年度 きゅうり 技術情報 No.3

大船渡農業改良普及センター（電話：0192-27-9918、FAX：0192-27-9936）

Point  ・7月は病気では**べと病等**に加え、高温が続く場合は**炭疽病、褐斑病、うどんこ病**、害虫では**ハダニ類、アブラムシ類**に注意が必要です。
 ・**早期に罹病葉を摘葉**し、薬剤散布を行いましょう。

1 7月に注意が必要な病害虫

病害虫名	4			5			6			7			8			9			10		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
アザミウマ類(ハウス)	[発生時期]																				
ハダニ類	[発生時期]																				
アブラムシ類	[発生時期]																				
べと病	[発生時期]																				
うどんこ病	[発生時期]																				
黒星病・斑点細菌病	[発生時期]																				
炭疽病・褐斑病	[発生時期]																				

:発生時期
 :重点防除時期

○管内における発生状況

【ハウス】

- 一部ほ場にて、うどんこ病、ハダニ、アザミウマ類の発生が見られます。

【露地】

- 一部地域で黒星病の発生が見られましたが、現在は治まっています。

○病害虫防除所発表：7月の発生予察情報(露地きゅうり)

- べと病、うどんこ病、褐斑病の発生は平年並み
- 炭疽病の発生はやや多い
- ワタアブラムシはやや多い

2 病害虫防除のポイント

(1) 予防散布の徹底

- 7月前半はべと病、黒星病、斑点細菌病に加え、高温が続く場合は、炭疽病、うどんこ病をターゲットに**発病前の予防散布を徹底**します。
- 降雨や結露によって感染が拡大するため、降雨前（感染前）防除を実施しましょう。
- 耐病性品種であっても、成り疲れ等による草勢低下や、防除圧が低いと発病**します。防除間隔が開きすぎないように、予防散布を徹底してください。

(2) 初発確認後、速やかに罹病葉を除去+薬剤散布

- ・褐斑病や炭疽病の蔓延防止のため、疑わしい病斑が見られたら摘葉を行い、速やかに薬剤散布を行いましょ。薬剤を選択する際には、「令和8年度 夏秋きゅうり特別散布農薬一覧」を参考にしてください。
- ・伝染源となる罹病葉を残したままでは、十分な防除効果が得られませんので、診断結果を待たずに速やかに摘葉し、防除してください。

(3) 農薬散布はアーチ両側から十分量を丁寧にしてください

- ・特に7月中旬以降は茎葉が繁茂し、散布ムラが生じやすくなります。防除効果を高めるためにも、アーチの両側から十分量を丁寧に散布してください。

3 キュウリホモフシス根腐病の拡大防止対策

- (1) 症状：収穫開始から8月にかけて発生が多くなります。収穫初期では、日中に葉が萎れ、夕方に回復します。萎れと回復を繰り返すうちに、徐々に下葉から枯れ上がります。
- (2) 伝染経路：土壌伝染性で空気伝染はしません。汚染圃場の土が人や機械を介して移動し伝染します。
- (3) 拡大防止対策：他の生産者のほ場を訪問する際は、靴カバーの使用やビニール袋で靴を覆う等、病原菌の拡散防止に努めましょ。

既に発病した畑がある方は、他の畑に広げないよう、機械の洗浄を徹底、使用する靴を分ける等の対策を行いましょ。

根が多少感染しても、十分に根を張らせる管理ができていれば、枯れあがることなく、終盤まで収穫することができます。根を張らせる管理が重要です。



日中は葉が萎れる



病気が進行し、枯れた株

★いわてアグリベンチャーネット URL: <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

岩手県からのお知らせに加えて、農業技術情報や病害虫に関する情報、各地域の情報など盛りだくさんです。ぜひご覧ください！！

★6月1日～8月31日は農薬危害防止運動

農薬を安全かつ適切に使用するために、農薬ラベルでの使用基準の確認、使用履歴の記帳を徹底ましょ。